

---

第 316 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2015 年 5 月 14 日(木) 17 時 30 分~19 時 30 分

場 所: 創立 30 周年記念棟大会議室「常念岳」

演 者: 居波 徹 氏(愛知学院大学歯科矯正学講座・臨床教授)

タイトル: リンガルブラケット矯正法の基礎と臨床

今回の学術セミナーでは、最初にわたくしがどのような考えで矯正治療(マルチブラケット法に限定)を組み立てているのかをお話しさせていただきます。この矯正診断や治療方針・方法の構築はわたくし達にとって非常に重要な『共通言語』と考えています。先生方とのより良いコミュニケーションを計るために必要と考えています。

さて本題の、『リンガルブラケット矯正法』は、永久歯列のマルチブラケット法の一方法として、神奈川歯科大学の藤田欣哉先生により世界に先駆けて開発されました。ほぼ同時期にアメリカやヨーロッパでも使用されましたが、患者さんの不快感や術者側のハンドリングの困難性、治療結果の問題からそれほど需要の伸びは見られませんでした。しかし近年、様々な技術革新がなされて、多くの矯正歯科医に再認識されるようになってきました。日本舌側矯正歯科学会が発足してから今年で 27 年になりますが、この数年で全会員数が約 500 名を超え急増しています。従来から、「リンガルブラケット矯正法」といえば、どちらかと言うと、マイナーで敬遠される矯正歯科医の先生が多かったのですが、若い矯正歯科の先生方の取り組みが顕著になってきたと感じております。また最近では『リンガルブラケット矯正法』に関する著作も数多くあります。また、常に最新のリンガルブラケット装置を開発している竹元京人先生等の多くのリンガル実習セミナーや大学・地方学会でも講演がなされています。このことは、大学病院等でも患者さんの『リンガルブラケット矯正治療』に対するニーズを感じ取られていると考えられます。また、セットアップを行い正確なブラケットの位置づけを行う事は『リンガルブラケット矯正治療』の最大の要です。『リンガルブラケット矯正法』では、ほとんどインダイレクトボンディングが主流となっていますので、矯正歯科技工が不可欠なのです。つまり、『リンガルブラケット矯正法』はその技工術式に非常に密接に発展してきており、両者の関係はまさに表裏一体なのです。当地の廣先生の考案された Hiro-System は世界のリンガルブラケット矯正を行う矯正歯科医にとって非常な福音でした。

三番目に、いま何故『リンガルブラケット矯正法』なのかについてお話しさせていただきます。成長期の患者さんの、カリエス罹患率が従来のラビアル矯正の 1/5 に軽減すると言われる『リンガルブラケット矯正法』はその他にも多くの特徴を持っていますので、今後若年者(中学高校生)のラビアル矯正に取って代わって行くことも夢では無いかも知れません。

四番目として、わたくしは、1985年頃よりKurz7thやSTBなどエッジワイズスロットの従来型のブラケットを使用してきました。2008年からは、フルカスタム・フルデジタルリボンVHリングブラケットシステム(FCRVH リングブラケット矯正法)に変更しました。現在、印象をドイツに送り、石膏模型の分割、Set-Upから装置をCAD-CAMで作成したものを使用しています。さらに、最近ではデジタルセットアップに変更され、来年からは、日本でもシリコーン印象からデジタルスキニングに変更の予定です。この、FCRVHリングブラケット矯正法のシステムはある意味で矯正歯科診療の近未来型の一面を示唆しています。今回は、この方法の特徴や臨床例についてご紹介させて頂きたいと思っております。

#### 講演内容

- 1:矯正歯科治療の共通言語
- 2:リングブラケット矯正法の経緯
- 3:リングブラケット矯正法の特徴
- 4:フルカスタム・フルデジタルリボンVHリングブラケット法の臨床
- 5:おわりに

#### 略歴

- 1976年3月:愛知学院大学歯学部 卒業
- 1976年4月:愛知学院大学歯学部 歯科矯正学講座 専科専攻生
- 1977年4月:愛知学院大学歯学部 歯科矯正学講座 助手
- 1981年4月:いなみ矯正歯科開院
- 1991年~2001年:レベルアンカレッジシステムコンサルタント
- 2005年4月~2007年3月:日本舌側矯正歯科学会(JLOA)会長
- 2008年3月~ 一般社団法人日本矯正歯科学会理事
- 2010年8月~2013年11月:愛知学院大学歯学部講師(非常勤)
- 2012年3月~2014年3月:公益社団法人日本矯正歯科学会常務理事(診査部門統括)、日本矯正歯科学会専門医委員会委員長
- 2013年12月~ 愛知学院大学歯学部歯科矯正学講座臨床教授

公益社団法人日本矯正歯科学会 認定医、専門医  
日本舌側矯正歯科学会 認定医